

このページは、小・中学生に向けて
梅光学院大学子ども学部子ども
未来学科(地域共生ゼミ)の学生が
作っています。

※イラスト 松山北斗さん



しものせき キッズページ



美術館未公認ゆるキャラ

Shimobin(しもびん)

ShiMoBiに行ってみよう!!

ShiMoBi... 下関市立美術館



1月号の編集記者(左から)田名龍ノ介さん、
中野 優さん、村上 涼さん

日本画に迫る!
日本画は、和紙や絹地などに岩絵具(鉱物が材料)などで描かれた日本の伝統的な絵画です。
現在、市立美術館では、1月22日まで、所蔵品展「度会文流齋謎のカリスマ御用絵師」が開催されています。度会文流齋は、江戸時代中期に長府藩御用絵師として活躍した人物だそうす。文流齋って一体何モノ!? と思った人はぜひ鑑賞に出掛けてみよう!
展示室で文流齋の作品を鑑賞してみると、いろいろな日本画の形を発見! 掛軸、屏風、貼り交ぜの額などがあつたんだ。その中でも今回、掛軸の取り扱いを体験してきたよ。



個人蔵(市立歴史博物館寄託)
《鯉図》(双幅)

▽《唐獅子図屏風》(部分) 市立美術館蔵



① 巻き止めを外す

実際に掛軸を掛けてみよう!!

② 矢筈(※)をひもに引っ掛けて、フックに引っ掛ける

③ 巻き終えた掛軸を持って、矢筈で引っ掛けて外す

④ 軸先を持って、軸が合うように真っすく上に巻いて行く

「掛軸を扱うときは…」
・アクセサリーを外す
・上着のボタンを全て留める
・長い髪の毛は結ぶ
・手を洗う

体験した感想
☆きれいに巻くのが難しかった。
☆作品を傷つけないように、細かいところまで注意をしなければならぬので、掛けて片付けるまでに時間がかかりました。
☆手順がたくさんあって、覚えるのが大変でした。

(※) 矢筈... 日本画を掛ける時の道具